

3 鳥取市教育ビジョン「めざす子ども像」策定経過

めざす子ども像	重点要素	必要な要素	要素の位置づけ	委員から出された「めざす子ども像」	協議内容	意識調査データ
---------	------	-------	---------	-------------------	------	---------

ふ  
る  
さ  
と  
を  
思  
い  
志  
を  
も  
つ  
子

ふるさと

「ふるさと」とは、「人が生まれ育ったところ」「安らぎ・親しみ・懐かしさを感じる場所」としてのちろんはちろんのこと、「自己を支えているものの礎」であり、「生きていくための礎」でもある。

郷土・家族

役に立つ

思いやり・感謝

助け合い

規範意識

立志

志

夢・希望

勇氣

忍耐

たくましさ

＜郷土で育む＞  
鳥取市の子もたちを育てていく上で最もベースになり、且つ重要視したいキーワード。  
＜家族を大切に＞  
子どもたちを育てていく上で基本単位であり、出発点であり、回帰場所となる要素。

＜役に立つ・思いやり・助け合い＞  
集団の中で他者との関わりの中でついでいく資質・能力。

＜規範意識＞  
今後生活をしていく上でなくてはならない資質・能力。行動を決定する判断基準となるもの。

＜立志・夢・希望＞  
様々な資質・能力をつけていくと同時に、自立に向けて方向性を自己決定していく上で必要な要素。

＜たくましさ・勇氣・忍耐＞  
何れの要素も個人のレベルでつけていく資質・能力。現在の鳥取市の子もたちが課題としてもち、「つけたい」資質・能力として位置づける。

「郷土で育む心」(原風景)  
・伝統や文化を尊重し、我が国と郷土を愛する心  
・郷土を学び、郷土を愛する子ども  
・鳥取の地・ふるさとを愛する子  
・鳥取の自然の中で、のびのび育つ子ども  
・地域・ふるさとに誇りをもてる子・家族・みんな  
・家族・郷土を愛する  
・家族や地域を大切にする子  
・物を大切にすること(もったいないの心)  
・自然を愛し、人を愛する子ども  
・人を愛し、自然を愛し、自分を大切にできる

「共生」  
・共に学び育ちあう子ども  
・人々と共存していくための心豊かな子  
・感謝、慈悲の心と社会への貢献する精神を持つ  
・違いを認め合い、強い優しさを持ち、人と仲良く協働できる子ども  
・生命を大切にし、他人を思いやる心(側近の心)  
・徳を積み、他人を思いやる子ども  
・他人に上るべき子ども  
・助け合い協力し合う子ども  
・信じる愛を持つ  
・あいさつ返事のできる子  
・進んで周りとふれあい、他人社会のために役に立とうとする子ども

「規範意識」  
・きまりを守って生活できる子ども  
・公德心を持ち、社会の一員としての自覚を持つ  
・きまりを守って互いに気持ちよく生活できる子ども  
・決まりやマナーを守る

「立志」  
・未来に向かって夢を持ち、たくましく、優しく生きていく子  
・未来に夢や希望を持ち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力  
・なりに自分に向かって努力する子ども  
・未来を夢見よく学び、大きく育つ子ども  
・夢・志を持って道徳(人)の切り拓く

「忍耐力」  
・何事にも学ぶ意欲と集中力を持って取り組む子ども  
・がんばり抜く子ども  
・理知的で向上心のある子ども  
・強い意志と体力のある子ども  
・汗を流して働くことのできる子ども  
・苦しくてもあきらめないで  
・へこたれない何くそと思える子ども

「勇氣」  
・勇氣(えいやー)  
・勇氣を出そう  
・たくましさ・勇氣をもって何事にも挑戦すること  
・鳥取からの反発力がいい方向に向ける子ども

「自主・自立」  
・自ら考え、主体的に判断して、自主的に行動する子  
・自分の力で正しく考える(選ぶ)子  
・自立と自己表現と自己実現のできる子ども  
・音言語、文字言語による表現伝達能力  
・自分で目標を立て、がんばる子ども

「健康」  
・健康で伸び伸びと育つ子ども  
・健康で、たくましく、伸びやかな子ども

「郷土で育む心」  
・個への偏重がありすぎるため、集団や国などを思う心、その基本となる家族や郷土を大事にしていける心を育て、郷土を大切にしてくれる子どもを作っていかなければならない。  
・自分が住んでいるところに誇りを持つことが大切である。将来ふるさとを支えていけるような子どもになってほしい。  
・家族が崩壊していることもあり、もっと家族を大事にできる人になってほしいと思っている。  
・地元の中にいると見落としていた部分が結構あると感じ、自分の根ざした場所を大事にしてくれる子を作っていきたいのではないと思う。  
・どうやって子ども時代にいいめをさせてやるかと思う。いいめをさせるとは、甘やかせることではなく、何かをさせてやること。部屋はあっても、自分の存在している場所や場所がない。地域で暮らすではないか。地域に存在しているが、祭りとかが行事が無くなっており、子どもたちが参加する場所がない。やはり子どもとのときにいいめをさせてやらないといけない。  
・外国に比べ、郷土を愛する気持ちが低い。鳥取の子どもたちがこれからの国際人となり活躍していくために、郷土に誇りを持って欲しい。  
・意識調査結果から、自然環境、伝統文化などを伝えたいという気持ちが高い。  
・「原体験」が郷土に帰ってくるきっかけとなっているのではないかと、子どもの時に「原体験」をさせてやれば、心のふるさとへ帰来してくれる。  
・他から見ればすごいのに、鳥取の子どもたちから見れば、軽んじられているのではないかと、目覚めさせてやりたい。  
・心の中に「原風景」をいつかにつけていくことが大切になる。精神的にダメージを受けたときに、心の中に「原風景」を持っている人は、立ち直ることが早いと思う。  
・日本という国を意識する子を作らなければ、日本は国際社会で太刀打ちできないと思う。これまでの教育で一層抜け落ちているの

「共生」  
・コミュニケーション能力が必要、表現能力、それも音声による自分の言葉、しっかりと文字による自分の意思表明が必要、公共性とか集団意識とか、「みんな」という考え方が弱いのではないかと思う。  
・異年齢の集団で育つ生活習慣はもっと大切にしてほしい。  
・自分いかに、隣の人も、また向うにもみんなが一線に楽しさを共有できる。サロンのような場を作っていくことが必要だと思う。  
・先輩後輩というのはとても大事。一つの民主化とか能力というは、基本的には年齢の序列をきちんと押さえていかないと、組織が崩壊していくと思う。  
・研究でも人間でやるのが多くてきているが、これがなかなかトータルがある。チームを組めない人が増えている。  
・鳥取の子どもたちはどちらかというと引込み思案で消極的との評価がある。周囲の人たちと協働して育ち合い・助け合う共生社会の実現のために大切に考える。  
・意識調査の結果から大人は「思いやり」「命の大切さ」を望んでいる。これは他者との関係の中で生まれるものであり、今の世の中だからこそ「共生」が必要だと考える。  
・大人や周りの人に会話にならなから、それが当然のように振る舞う若者たち。チームを組めない人が増えている。  
・いかに人を教える、それに感謝し、応え、社会へ貢献する心を育てる必要がある。  
・本当に勇氣ある人間は自他の生命を尊重し他人を思いやる心をもつものである。単独者にならないために「側近の心」を育てる必要がある。  
・鳥取の子どもたちは、どちらかというと自己アピールが下手。良いものをもちながら表現下手のため、他人に認められずにいるケースも多い。誠実な態度で周囲の信頼を得て、なおかつ友達に強い信頼相手になる等の人間関係が醸成されるべきと考える。  
・「生かされている」という考えは、他者を犠牲にしては成り立たない。感謝するということが基本にある。

「規範意識」  
・大体は守るが徹底ができずにきちんと守っていないことがみられるので、「規範意識(ルール遵守)」ということを考えてみた。  
・規範意識は大切。「決まりやマナーを守る子ども」になってほしいと思う。  
・あいさつや社会のルールを守るなど、人ととて生活していく上での基礎基本を育てたい。

「立志」  
・未来に夢が持てる子どもでない、激動の時代を乗り切れないのではないかと、しかも、それには裏づけとなる確かな学力が必要である。  
・自分の夢を実現させるためには、鳥取地域ではそれがかなわないので出ざるを得ない。それは仕方ない部分もあるが、大きく外に志を取って別な道にいく(子どもも育ててほしい)。  
・短期的な夢や生き甲斐にとどまらず、一生を通してその時々今の自分を見つめることのできる大人になってほしい。  
・自分の夢や目標が持てず、親や教師の言いなりになってしまっているのではないかと、たくましく、自分で判断する力をつけて欲しい。  
・日本の若者は他国の若者に比べて将来に夢や希望を持っている者が少なく(無気力)である。自立心ややる気を育て、たくましく自らの人生を切り拓く(力)を育てる必要がある。  
・鳥取の子どもたちを取り巻く環境は都市部と比較して刺激も少なく(学習材料もさほど多くはない)、そうした中で多用な学習情報を提供し、高い志をもって学習に挑戦し、自己実現を図ることが求められる。

「忍耐力」  
・「忍耐力」にとかえつづけることを言われてもへこたれない。大人が思う以上に、子ども同士お互いに気を使っていて、傷つきのものためである。本来の子どもは姿というのは、日が暮れるまで伸び伸びと一緒になって遊べるような姿であってほしい。  
・鳥取の子どもたちも含め、現代っ子はあきらめが早(最後まで粘り強くやり抜く)力に欠ける印象がある。また、苦しいことに辛いとを避けて通るとうる安易な道を選択しやすい(野郎気)もある。  
・現代では楽をしてお金を手にすることばかり考えられる大人や子どもが多い。3Kといわれる職業を避ける傾向があり、農業などの就労が少ない状況もある。労働の捉え方が問題と考える。働くと家の楽しさや意義を体験させることが必要。

「勇氣」  
・「煮えたら煮わあ」のたえのように、なかなか自分の意見が言えず、人がするのを見ていた。「えいやー」と言って、ここいこうときには一歩乗り越える力強さが子どもたちに欲しいと思っている。  
・国際化に対応するということでは、出て行っても負けない子、がんこな子を作れということだ。  
・人間は多くの人間関係の中で生きているが、いじめなどをほじきまसान問題もある。それを解決するためには、多様な価値観を認め合うことで自分を認め合うことができる。また、見て見ぬふりをする人が多い中で、強い優しさを持って協働できる子どもになって欲しい。  
・今の子どもたちの現状に対して、「消極的」「言いたいことが言えない」などの弱い面を打破していきたいという思いは強い。

「自主・自立」  
・親が子どものことに手をかけすぎている。子どもがすべきことを親がしているの、子どもが「自立」できていない状況がある。  
・親が全てしてしまし、家の中で子どものする仕事がない。小さい時から仕事がなく、役割がないまま育っている。  
・子どもたちに何かをやらせ、そのときはえらいかもしれないが、達成感をもたせて自分たちがやったという思いを持たせないといけない。  
・個を尊重することはよいと思うが、それによって学校教育でリーダーを作ることになったことに問題がある。リーダーになる能力があれば、リーダーになれることをさせてやらせないといけない。リーダーでなくともサポートできる子もいる。教育の仕方も変えていかないと、個の偏重になってしまいがちな点で自分だけよければよいことになる。  
・今の子どもたちは、人に流れやすい。何が正しいのか、しっかりと自分で判断する力をつけて欲しい。  
・自ら課題に気づき、それに対する目標を立てて、それを達成するためにがんばる姿が大切。  
・意識調査では「消極的」「人前で意見を言うのが苦手」が多かった。自分の力で考えて、判断し、行動して欲しい。

「健康」  
・健康で伸び伸び育つ子どもであってほしいと思う。  
・体力の面で「がんばり抜く子ども」が必要。  
・強い意志と体力が必要。  
・辛くても苦しくても目標に向かって最後までやり遂げる体力が求められる。

郷土で育む

アンケート「伝えたい」鳥取市のよさや誇り;  
Q. 自然環境の美しさや豊かさ  
一般市民 85.2%  
保護者 88.0%  
教職員 91.2%  
教育ビジョン策定会議  
・地域に住んでいると見落としている部分がある、本当のすばらしさを伝えていないのではないかと。

家族

アンケート「子ども達を取りま(環境);  
Q. 家族と過ごす時間が少ない  
一般市民 69.7%  
保護者 45.9%  
教職員 78.8%  
教育ビジョン策定会議  
・子どもにとって人間形成の根本は家族。  
・子どもにとって全てを受け入れてくれる場であるとともに、社会性を身に付ける場、社会規範を教える、家庭内での役割を与えているか。

思いやり

アンケート「子ども達に対するイメージ」;  
Q. 思いやりがあまりない  
一般市民 53.1%  
保護者 64.6%  
教職員 77.4%  
児童生徒 83.4%  
教育ビジョン策定会議  
・鳥取の子ども達は表現は苦手だが、心優しい誠実な子どもが多い。自信を持って、  
・本当の思いやりとは何か、親の過保護や個人の尊重という名の庇佐ではない。

規範意識

アンケート「めざす鳥取市の子も像」;  
Q. あいさつや道徳心のできる子ども  
一般市民 74.4%  
保護者 74.1%  
教職員 66.2%  
児童生徒 61.7%  
教育ビジョン策定会議  
・社会の一員としてともに生活していく上で、大切なこと。また、同じことは大人にも言える。  
・何が正しいのかを判断する基準に、規範意識は大きな影響を与える。

立志・夢や希望

アンケート「将来抱きたい職業があるか」  
一般市民 67.7%  
保護者 52.3%  
教職員 80.7%  
児童生徒 46.4%  
教育ビジョン策定会議  
・「立志」という言葉に難しいように思えるが、それを伝えるのが大人の仕事。  
・自分の夢が持てず、親や教師の言いなりになっていないか。また、大人は安易にそういう子どもを育てていないか。

忍耐

アンケート「めざす鳥取市の子も像」;  
Q. がんばり抜く子どもが好き  
一般市民 63.1%  
保護者 64.5%  
教職員 66.1%  
児童生徒 79.3%  
教育ビジョン策定会議  
・「めざす」という言葉に難しいように思えるが、それを伝えるのが大人の仕事。  
・自分の夢が持てず、親や教師の言いなりになっていないか。また、大人は安易にそういう子どもを育てていないか。

自主自立

アンケート「子ども達に対するイメージ」;  
Q. 責任感があり、まじめな子ども  
一般市民 31.8%  
保護者 35.5%  
教職員 36.8%  
児童生徒 70.6%  
教育ビジョン策定会議  
・大人は、子どもには無理だと、時間がないと言って子ども達にまかせていない。集団の中で、自分たちで解決するための場が必要。  
・子ども達は何かにやらせてもらうことを待っていないか、学校や家族、地域社会でお互いが支え合える関係が必要。

解決への意識は低い

アンケート「期待する学校」;  
Q. 子どもが行き先の公園で遊ぶ  
一般市民 21.7%  
保護者 24.5%  
教職員 21.3%  
児童生徒 18.2%